

シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金 成果報告書

「震災復興学生まちづくりシンポジウム」

(新名称「YORIAI3.11」)

2011年11月12日(日)、宮城県仙台市青葉区一番町4丁目のエル・パーク仙台6階のギャラリーホールにて、震災復興学生シンポジウム(新名称「YORIAI3.11 in Sendai」)を、当基金を利用して開催させて頂きました。また、合わせて11月22日(火)23日(水)に東京ミッドタウンで開かれた Open Research Forum 2011「学問のシンカ」にて「YORIAI3.11」に関する発表をさせて頂きましたので、ここでその成果を報告させて頂きます。



YORIAI3.11 in Sendai の様子

(左：各々の問題意識の書き出し作業時)

(右：最終的なまとめを作り記念撮影をした際)

YORIAI3.11とは、「社会をよりよくしようとする若者を応援する全国規模のプラットフォーム」となることを最終的に目指しています。

現段階では、まず「東日本大震災における若者の活動(ボランティア・NPO・研究活動含む)同士の協力体制を作るプラットフォームになること」を目標とし、第一回目のシンポジウムを宮城県仙台市にて行いました。

仙台でのシンポジウムでは、東北大学、早稲田大学などを中心に東日本大震災の被災地に入り活動をしている学生団体が15程度集まりました。

シンポジウムでは、まず、これらの活動中核メンバー同士の考えを引き出すために、10:00~12:00の午前中の時間を用いて、それぞれのメンバーがどのような問題意識を発意し、どのような動機を持ってどんな活動を行っているのかという部分を共有する時間を設けました。この時間を通して、お互いがお互いのプロジェクトを知り、それぞれがプロジェク

トを動かしていく上で何が支障になっているのか、またどのような協力体制ができるのか話しあうための素地ができたと考えています。メンバーの中には、肉親が津波でお亡くなりになっていた方など色々なバックグラウンドの下に、集まっていることを共有できました。これらのバックグラウンドは、単なる活動同士の協力シンポジウムでは知ることができませんが、本格的な議論の前に互いのバックグラウンドを知ることが、その後の議論をより深くすることに寄与したと考えています。

午後に入り、本格的な議論の時間が始まり、それぞれのメンバー行っていることとこれからやっていきたいと考えていることの共有が始まりました。全て作業はA0の模造紙を用いながら、ひたすら書き出していく方法が取られました。その中から、4つのグループがなされ、それぞれのグループで問題意識及びこれからの方向性に関する結論がまとめられました。

17:00をもって終了した YORIAI in Sendai は、最後にまとめられた内容を facebook 上の「YORIAI meeting!」というページ上に掲示され、それぞれの活動の目標実践のために今も参加メンバーによる更新が行われています。まだ、このプロジェクトによる具体的な効果は「繋がり」という面以外では出てきていません。しかし、これから第2回、第3回の YORIAI を通して、この協力体制による効果がでるのではないかという仮説の下、事後のメンバー間における協力体制と効果のヒアリングを行っていくことを予定しています。



facebook ページ「YORIAI meeting!」では現在も議論の続きが行われている。

末筆になってしまいましたが、これら YORIAI の活動は、1月22日(火)23日(水)に東京ミッドタウンで開かれた Open Research Forum 2011 の一之瀬研究室ブース内、気仙沼復興プロジェクトパネルの一部として出展いたしました。ORF ブースでは、気仙沼市長をはじめ、沢山の大学関係者の方々や企業・記者の方々にも周知されましたので、今後、このプロジェクトは更なる議論の活性化が期待されると考えています。

以上で成果報告を終わります。今回は資金援助をして頂き、本当に有難うございました。